

現代の若者に合う電子媒体

「manabaの特徴は、ペーパーレスのエコフレンドリーなシステムであること。また、現代の若者にマッチしているのも魅力ですね」と崔先生。大学院の授業「技術経営ケースライティング」では、伝達事項はコースニュースにアップ。学生は、manabaを携帯やスマホにつなげているので、manabaにアップするとすぐに反応があるのだそう。「今の若者は、紙媒体より電子媒体の方が違和感なく使えるんです」と使い勝手のよさを実感しています。

グループワークもスムーズに

そのほかに使っているのは、プロジェクト機能です。この活用によって、毎回の授業でグループによるプレゼンテーションが可能になりました。「授業が終わった日の夕方には、コースニュースでプレゼン課題を公開。学生はmanabaを使ってプレゼン資料を共有・作成できますし、私は各チームの進捗を確認できるので便利なんです」。

学生の満足度もアップ

グループワークと同時に、学生一人ひとりにも同じケーススタディをレポート課題として出題。プレゼンと同日に提出を課しているのも崔先生の授業の特徴です。「グループワークだけで評価すると、プレゼンの評価が高い場合、何もしていない“フリーライダー”も評価は高くなります。逆に、一生懸命グループワークに取り組んでも、プレゼンの評価が低いとその学生は評価されません。そうした不公平性を払拭するために、個人のレポートも課題にしているのです」。

このような授業スタイルは、学びの質を高めるのにも効果的。学生はグループワークに取り組むと同時に、レポート提出に向け

て、個々でも深く考えるようになったのだそう。「忙しいとは思いますが、達成感があるのではないのでしょうか。私自身も内容の濃い授業が行えますし、学生の満足度も高いと思いますよ」と崔先生は、独自の授業が学生にもたらした作用について話してくださいました。

成績の公開で透明性を確保する

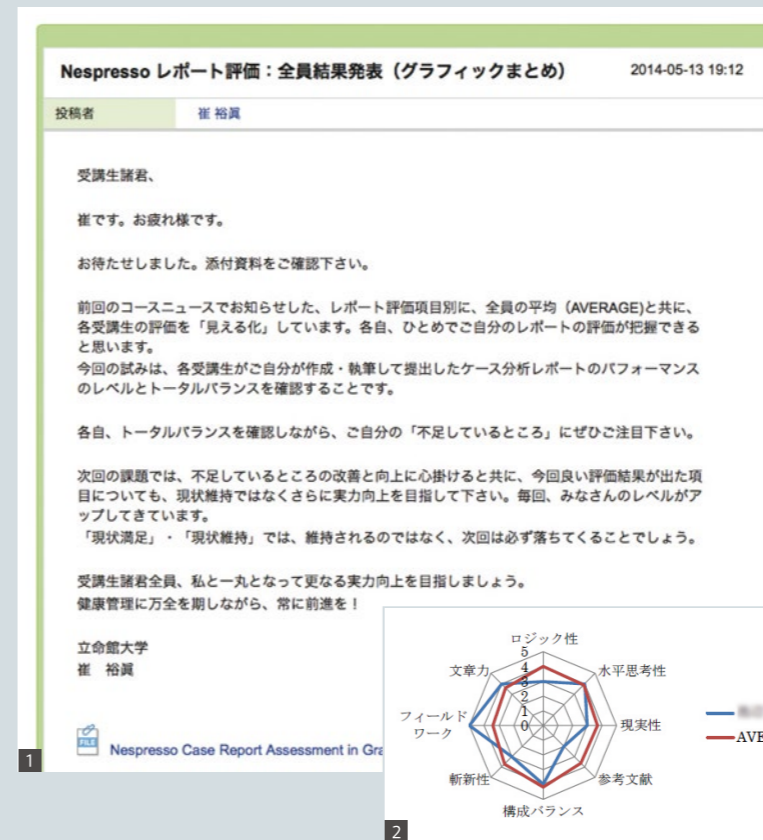
「もうひとつの魅力は、透明性を確保で

きることです」と崔先生は、学生の成績を全員に公開するというユニークな方法を取り入れています。

各学生の成績は、あらかじめ設定した基準に基づいて、ケーススタディごとに実施。それをレーダーチャートにしてコースニュースにアップし、全員が閲覧できるようにしています。その狙いを「すべての学生を公平に評価している、と伝えること」と崔先生。紙媒体や口頭で伝えるには手間と時間がかかりすぎますが、manabaを使えば、デー



学生と本音で付き合い、
ともに成長できるシステム



1 技術経営ケースライティングのコースニュース画面です。伝達事項や授業で扱ったケースごとの成績の公開をする場として使っています。 2 技術経営ケースライティングでコースニュースに添付したファイルです。学生がレポート課題として提出したケース分析レポートの評価をレーダーチャートで公開しています。

タを打ち込むだけで詳細な評価も可能。「これを見れば、学生は自分の成績がAであろうがBであろうが理由をはっきりと知り、納得できる。manabaは、みんながハッピーになれるツールだと思っています」。

成績の“見える化”で成長を実感

「成績の公開は、『教員に見守られ、きちんと評価されたい』という学生のデマンドにこたえている」と崔先生は話します。また、成績は、ロジック性、水平思考性、文章力など8つの評価項目のレベルの推移をレーダーチャートで“見える化”しているので、成長した部分もそうでない部分も一目瞭然。学習意欲を高めるのにも役立っているそうです。

「manabaを通して、学生から率直な意見が聞けるようになったことも大きな成果。

学生との人間的な付き合いが活発化し、より一層、一緒に成長していると感じます」と笑顔を見せる崔先生。manabaの導入で、授業の質の向上とともに、思わぬ副産物も得られたようです。



授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席